

NACOME

全国大学音楽教育学会 関西地区学会  
令和4年度 総会、及び前期研究会

\*\*\*\*\*

令和4年7月31日(日) 13:30~16:00

大阪キリスト教短期大学講堂

主催 全国大学音楽教育学会 関西地区学会

## プログラム

### I. 令和4年度総会 (13:30~14:00)

1. 令和3年度活動報告 (山岸 徹)、令和3年度決算報告 (篠原美幸)
2. 会計監査報告 (福間久美)
3. 令和4年度活動計画案 (山岸 徹)、令和4年度予算案 (篠原美幸)
4. その他

### II. 研究演奏発表 (14:00~14:25)

1. ピアノ独奏 田中 慈子 (京都光華女子大学)  
即興曲 Op.90 第2番 変ホ長調 シューベルト作曲
2. ピアノ独奏 的場 里美 (神戸教育短期大学)  
プレリュード Op.32 No.10 ラフマニノフ作曲
3. 作品発表 山岸 徹 (大阪キリスト教短期大学)  
独 唱 桐山 由香 (大阪青山大学)  
ピアノ 山岸 多恵 (兵庫教育大学)  
ふるふる さくら 瑞木 よう作詩/山岸 徹作曲

休 憩

### III. 講演 (14:40~16:00)

講師：権藤 敦子 氏 (広島大学大学院教授)  
演題：音楽科教育における「伝統音楽」とは

#### 【権藤 敦子 先生：プロフィール】

1985年東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了, 2013年博士(学術 東京芸術大学)。エリザベト音楽大学講師, 助教授を経て, 現在, 広島大学大学院人間社会科学研究科教授, 日本音楽教育学会会長, 日本民俗音楽学会・初等教育カリキュラム学会理事。著書・論文に, 『高野辰之と唱歌の時代—日本の音楽文化と教育の接点をもとめて—』, 『《勅語奉答》と唱歌教育—雑誌記事を中心に—』, 『明治・大正期の演歌における洋楽受容』, 『音楽文化の視点から教科内容としての『歌うこと』を捉え直す—ブータンの掛け合い歌に見られる双方向性をてがかりに—』(共著)ほか, 訳書に, R. P. フェルプス著『音楽教育研究入門』(共訳)ほか。

## 講演要旨

### 演題：音楽科教育における「伝統音楽」とは

「伝統音楽」と音楽教育の関わりについて、これまで多くの議論がなされてきました。「伝統音楽とは、その国や地域の歴史や文化、風土のなかではぐくまれた音楽のこと」<sup>1)</sup> だとしても、現代の日本では、日常のくらしのなかでそうした伝統音楽と出会う機会はあまりありません。将来「国楽」をおこすべき人物を養成する方針のもとに学校音楽教育の歴史が始まりましたが、150年たって課題は山積しています。複数の領域で伝統についての見直しがなされている現在、音楽科教育における「伝統音楽」とは？という問いについて、近代以降の歴史を概観し、音をたどりながら考えてみたいと思います（楽曲の一部を伊原木幸馬さんに演奏していただく予定です）。

<sup>1)</sup> 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター『受けつごう！伝統音楽の今後』ミネルヴァ書房，2020，p.2.

## 研究演奏発表要旨

### 1. ピアノ独奏 即興曲 Op.90 第2番 変ホ長調 シューベルト作曲

田中 慈子 (京都光華女子大学)

シューベルトは、31年という短い生涯の中で、600曲を超える歌曲だけでなく、交響曲、ピアノ曲、室内楽曲など、さまざまなジャンルの作品を1000曲近く残した。彼が亡くなる前年の1827年に作曲した作品90と作品142、それぞれ4曲ずつからなる《即興曲集》は、《楽興の時》と並んでシューベルトの代表的なピアノ曲である。作品90の4つの即興曲は、前半の2曲のみ作曲された年に、後半の2曲は作曲者の死後の1857年に出版された。

本日演奏する作品90の第2番は、A-B-A-コーダの三部形式で書かれている。エチュード的な要素を備えた変ホ長調のセクションAと、情熱的で強弱のコントラストに富んだ口短調のセクションB、そして転調を重ねて変ホ短調に終わるコーダから成る。ピアノ学習者の間でしばしば演奏される人気曲だけに、一見、易しく見えるものの、シューベルトの音楽が持つ繊細さと独特のハーモニーを表現するためには、高い技術が求められる。

### 2. ピアノ独奏 プレリュード Op.32 No.10 ラフマニノフ作曲

的場 里美 (神戸教育短期大学)

ラフマニノフは合計24曲の《プレリュード》を完成させた。中でもこの作品32の第10番は荘厳でスケールが大きい。特に中間部の18小節に渡る壮大な和音の響きはラフマニノフならではのスケールの大きさは見事であり、楽器の音響を最大限に使い低音の響きを効果的に使っている。一番多い小節の音符の数は実に96個におよび、これらにペダルを用いて豊かな響きを表現するのだが、不必要な力が入ると豊かな響きが出ず、脱力がとても重要になってくる。

一方、学生がピアノを演奏する時、無駄な力が入り時には腕が痛くなることがあるが、その時は無駄な力を排除するためのアレクサンダー・テクニクやライグラフィメソッドを随時取り入れて指導している。

今回、これらのメソッドの有効性を確認する意味を込め、柔軟な腕や手首を用いて自然な奏法で豊かな響きを実現することを試みた。

### 3. 作品発表 ふるふる さくら 瑞木 よう作詩／山岸 徹作曲

独 唱 桐山 由香 (大阪青山大学)  
ピアノ 山岸 多恵 (兵庫教育大学)

令和元年度後期本学会研究会で演奏していただいた《桜の空》に続き、今回も瑞木よう氏の詩による歌曲を演奏していただく。その回のプログラムでも述べたとおり、同氏とは、詩人・作曲家・演奏家によるコラボレーションの場である「ひょうご日本歌曲の会」の活動を通じて出会うことができた。今回もまた、前作と共通した桜をテーマとした詩であるが、前作とは違った風景のイメージが広がる。

この作品は昨年11月に開催された「ひょうご日本歌曲の会」演奏会で初演されたもので、本日は再演となる。同会の活動拠点である西宮市からの助成<sup>1)</sup>を受けるにあたり、詩には同市内の地名が多く盛り込まれていて、作曲するに当たってもそれらを生かして親しみやすい作品となるように意図した。

本日、本学会会員のお二人に演奏していただけることを感謝している。

詩と音楽の繋がりを考えて音楽創造活動することや、演奏活動と関わってゆくことが自分自身の教育活動においても役立っていると考えている。

<sup>1)</sup> 令和3年度西宮市共同事業提案 (地域文化振興部門)

\* \* \* \* \*

#### ●お知らせ

- ・全国大学音楽教育学会 関西地区学会誌 第2号 vol.2 2021 について：  
残部が若干数ございます。実費 (¥600) にて販売いたします。
- ・関西地区学会ウェブサイト <https://nacome-kansai.jimdofree.com>
- ・全国大学音楽教育学会ウェブサイト <http://www.nacome.com>

NACOME

全国大学音楽教育学会  
関西地区学会

National Association of College Music Education